

5 月号
VOL. 490

土會奈良



SHIKAI

2016 NARA

表紙のことば

サン・マルコの大鐘楼(イタリア・ベネチア)



サン・マルコ広場にそびえる96mの塔。世界で一番美しいと言われている。ヴェネツィアで最も有名な大聖堂。見張り台と灯台の役目をしている、ビザンテン建築を代表する記念建築物。826年建築。1902年に崩壊。現在の建物は1912年に再建されたもの。屋上からの眺めは最高。高さ96mで赤レンガと大理石で造られている。白い格子状の部分が見晴台となっております。上の写真は緑色の尖塔のてっぺんには黄金に輝く「カプリエル大天使像」がついています。風向きによって回転するそうです。有料のエレベーターで登れて快適です。世界遺産のサン・マルコ寺院。サン・マルコ広場は勿論ヴェネツィア市内。運河の船（ゴンドラ）も青い海も青い空、赤茶色の建物、360度好きな角度から見られるとても素敵な処です。
(写真・文 提供 出原 眞)

情報・広報委員会

委員長 松尾 憲治

副委員長 田上 圭吾 折目 貴司

委員 乾井 哲 水守 寛敏
松村 泰徳 大倉 克之
小松原寛俊 崎山 泰正
福西 保夫 福本 保治
藤井 靖彦 宮浦 重彦

Contents

001 青年委員会
「第3回模型講習会」

002 日本建築総合試験所
「鋼と建築 第1回 「鉄と鋼」」

004
「マニー水守の見聞雑記」

005 青年委員会
「奈良の森と木と家のフェスタ」

006 青年委員会
「IT意見交換会」

007 青年委員会
「近建青事業 第1回近畿青年建築士サミット
事業報告」
「近建青事業 第1回近畿青年建築士サミット
に参加して」

008 郡山支部
「未来につなぐ！城下町の歴史的建造物を
活かしたまちづくり」

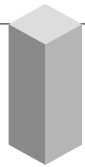
010 奈良支部
「スペイン研修報告書」

012 天理支部
「京都国立博物館・二条城 研修会」

014 高田支部
「高田支部事業報告」

016 住まいまちづくり委員会
「平城地域歴史的建造物調査 報告会
押熊・中山・山陵・秋篠・歌姫」

017 お知らせ
「通常総会」他



青年委員会 第3回模型講習会

※編集の都合上、掲載が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

開催日時：平成27年9月5日(土)、12日(土)

9：30～14：30

開催場所：奈良県建築士会館

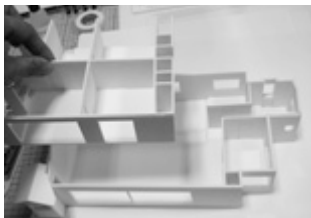
参加者：9名(内学生7名)

平成25年度に初めて開催された建築模型講習会は早くも3回目を迎えました。

昨今、私たちのライフスタイルは大きく変化し、今後も一段と進むことが予想されます。

ライフスタイルの変化は必然的に多様性を伴うものであり、家づくりにおいてもその対応が求められます。既存の物件の間取りや水回りなど建物全体のデザインを大きく変える住宅改修工事は、新築時の性能に近づけることだけでなく、さらに快適に住めるよう付加価値を与えるものとして、今後ますます注目されていくと思われます。

今回の建築模型講習会は【リフォーム編】と題して、今後さらに増えていくと予想される住宅改修工事を考える上で、改修前と改修後を比較して判断できる差替え式の模型制作を行いました。その際、より理解が得やすいよう、制作の流れに沿って映像も交えた説明もありました。



1日目(9月5日)。模型を制作する上で欠かせない道具や材料の説明をした後、まずはウォーミングアップとして5cm角のサイコロを制作しました。

単純に同じ大きさの正方形を6枚くっつけても正立方体のサイコロにはならないことや、正確な建築模型を作るには辺の勝ち負け、のりしろ作り、水平・垂直を意識したスチレンボードの切り出しなどを考えることが重要であることを学びました。



その後、メインとなる模型の床・外壁の切り出しを行いました。床については、リフォーム模型ならではの取り外し可能な工夫がされた床を制作しました。外壁については、

図面の寸法通り、スチレンボードを切り出すだけで良いと思っていた受講者が多くいました。しかし、実際は入隅や出隅ののりしろを考える必要があり、図面を立体的に組み立てる難しさを感じたようです。

模型の仕組みが分かると、徐々に手つきも慣れ、制作スピードも上がってきたように感じました。



2日目(9月12日)。リフォーム後の床・間仕切壁の制作を行いました。リフォームプランは、空いた1週間を利用して各々考えていただきました。中には、「とても楽しく考えました。」と手描きのプランを持参した方もおられ、場の雰囲気も盛り上がりました。作業の方もコツを掴んで、皆さん終始没頭されている様子でした。

最後に1人ずつプレゼンテーションが行われました。

改修前の壁を活かして部屋の用途のみを変えるプランや、間仕切壁を無くして大きな広間にするプランなど、個性豊かで興味深いプランが発表されました。また、今回留学生の方も何名かおられて、国による住宅文化の違いなども知ることができました。



今回の講習会は作業量も多く、個々の制作スピードに大きな差があるように感じました。今後は、初心者に向けて本講習会前に予行練習の日を設けるなどの工夫が必要と思われました。また今回、専門学校の講師をされている建築士会の会員様からご縁をいただき、学生さんに多く参加していただきました。今後も世代を問わず多くの方に参加していただけるような中身の濃い講習会を目指していきたいと思います。

多くの個性、多様性に接することができ大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

講師を務めてくださった(株)大和工藝の谷様、林様。運営にご協力いただきました青年委員会の皆様。本当にありがとうございました。(記・青年委員会 木本千香子)



1. はじめに

「鉄ほど人間に深くむすびついた金属もない¹⁾」。これから6回にわたり、鉄（鋼）と建築にかかわる多少の話題を提供したいと思う。ただし、鉄骨構造（鋼構造）の設計にかかわる具体的事項については触れないので、必要であれば参考資料²⁾を参照していただきたい。

なお、鉄骨構造と鋼構造の二つの用語について、建築学会では「鋼構造」を採用しているが、特に理由もなく両用語は使用されている。どちらでもいいのだが、本稿では「鋼構造」と呼ぶことにする。

2. 鉄と鋼

現在我々が広く使用し、「鉄」と呼んでいる金属は、その多くの成分が金属元素の鉄(Fe)であり、その他に炭素(C)、珪素(Si)、磷(P)、硫黄(S)、マンガン(Mn)、クロム(Cr)、その他の元素を含んだ合金になっている。

ところで、地球内部の主成分は鉄、酸素、珪素、マグネシウムの4元素である。これら4元素の重量比率は図1のようになっている³⁾、鉄元素が最も多い。地球の内部構造において、核の部分はニッケルを含有する鉄でできており、地球の重さの1/3は鉄である。図2は地殻の元素成分構成である³⁾。最も多い金属はアルミニウムで、鉄はこれに次いで多い金属であり、地殻全体の5%の重量を占めている。

ところで、内部の核が鉄であるような惑星を地球型惑星といい、火星までがこの種の惑星である。木星以遠の惑星は主に岩石と氷でできている。

金属元素としての鉄(Fe)は純粋の元素のままで産出されることはない。鋼の原料である鉄鉱石は、一般に酸素と結合して酸化鉄の形をとっている。鉄鉱石（酸化鉄）は、20～25億年前に生成されたと推定されている。当時海中に溶存していた鉄は、光合成生物の出現によって放出された酸素と結合して海底に鉄鉱石の層として沈殿した⁴⁾。その

後の地殻変動を経て陸上に存在している鉄鉱石を我々は資源として活用している。このようにして生成された鉄は地球上に極めて大量に存在し、広く分布している。

「重金属は、人間にとって有害なものが多いが、鉄分は生命維持に必須の元素である。これは、鉄分が豊富な海の中で生物が誕生したと無縁ではないであろう。」というような意味のことを何かで読んだ記憶がある。このことは、生命が誕生した海水中に鉄元素が多量に含まれていたと無縁ではないであろう。鉄を敵にまわして生存は不可能だったはずである。

金属としての鉄はそれに含まれている炭素の量が少ないほど柔らかくて延びやすい。逆に炭素量が増えると強度・硬度が高くなるが、延性（靱性）が低下して脆くなる。このように、鉄は炭素の含有量に応じて性質が大きく変化し、次のように分類されている。

- ・純鉄（炭素含有量：0.035%未満）
- ・鋼（炭素含有量：0.035～1.7%）
- ・鉄鉄（炭素含有量：1.7%以上）

以上のように「鋼」は含有炭素量によって定義されていて、さらに炭素量によって表1のように分類される。炭素量が増えると溶接性も低下するので、建築構造で主に使用される鋼材は、表1中の軟鋼と呼ばれるものである。一般構造用圧延鋼材であるSS400やSM490、また建築構造用圧延鋼材であるSN材などは軟鋼である。

鉄の融点は炭素含有量に応じて図3のように変化する。炭素量が3～5%の鉄を特に铸铁という。図3に示すように、铸铁の融点は低いため、これを溶融させて鋳型に流し込んで鋳造する鋳物用の鉄として活用されている。代表的な铸铁製品の一つがマンホールの蓋である。

	炭素量(重量%)
極軟鋼	0.035～0.15
軟鋼	0.15～0.30
半硬鋼	0.30～0.50
硬鋼	0.50～0.80
最硬鋼	0.80～1.2

表1 鋼の分類

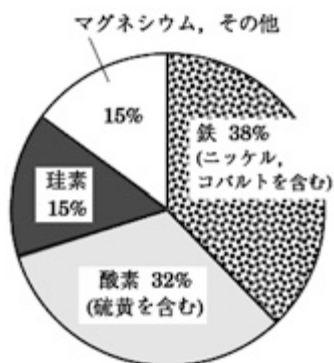


図1 地球の元素成分構成（重量%）

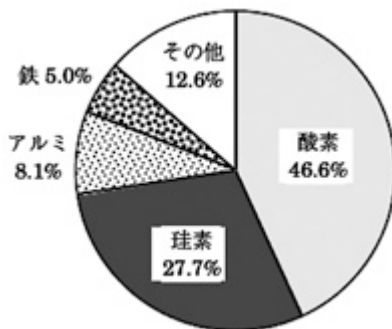


図2 地殻の元素成分構成（重量%）

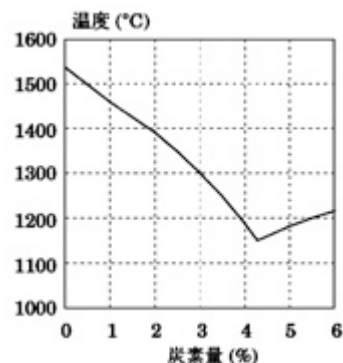


図3 鉄の融点と炭素量の関係

略 歴

井上一郎 (いのうえ かずお)

(一財)日本建築総合試験所 副理事長・試験研究センター長。工学博士。
1946年福岡県生まれ。1970年九州大学大学院工学研究科建築学専攻修了。
日立造船鉄鋼設計部、大阪大学工学部・助手、助教授、京都大学大学院
工学研究科・教授、岡山理科大学総合情報学部建築学科・教授を経て現職。

賞 罰

1997年 日本建築学会学会賞(論文)受賞。1998年 日本鋼構造協会奨励賞
論文部門受賞、2008年 日本鋼構造協会論文賞受賞

3. 鋼の製造

酸化鉄である鉄鉱石には鋼に有害な物質(硫黄やリンなど)も含まれている。このような鉄鉱石からそれぞれの用途に適するような性質・形状に造り替えて商品化したもの、すなわち鉄鋼製品を造り出すには一般に次の工程を経る。

製鉄 → 製鋼 → 圧延

まず炭素成分と不純物が多い鉄鉄を造り(製鉄)、次に炭素と不純物を大幅に減らして鋼を造る(製鋼)。この方法は間接製鉄法と呼ばれている。次に鋼を押し延ばして、H形鋼などの圧延鋼材に成形する(圧延)。

製鉄の工程に使用される設備が溶鉄炉であり、わが国の鉄鉄は高炉と呼ばれる溶鉄炉で生産されている。鉄鉄の炭素や不純物を減らして強靱な性質を与えたものが鋼であり、鋼を造ることを製鋼という。製鋼には転炉あるいは電気炉(電炉)が用いられ、転炉は鉄鉄、電気炉は鉄くず(スクラップ)を主原料とする。

転炉は、1856年にベッセマーによって発明された鋼の大量生産技術である⁵⁾。これは明治維新の12年前のことであった。図4に現在の転炉の構造を示すが、初期の転炉では純酸素ではなく空気を転炉の底から吹き込んでいた。溶鉄中の炭素や不純物を酸化燃焼させて目標とする材質の鋼に変換するのが転炉(converter)の仕組みであり、この工程で燃料は不要という画期的な技術である。

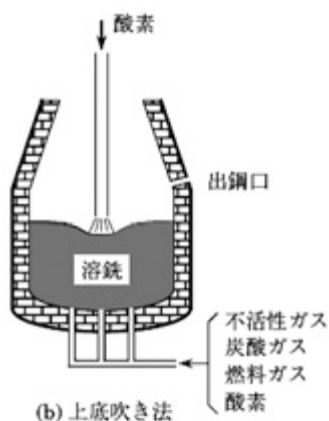


図4 転炉による製鋼

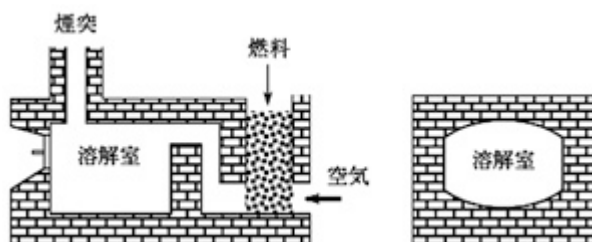


図5 反射炉の仕組み

電気炉は、アーク熱(約5000℃)でスクラップを溶融して鋼を再生する溶解炉である。現在、日本の粗鋼生産量は年間約1億トンであるが、そのうち電炉鋼の占める比率は1/4～1/3ほどである。電炉鋼のメインの消費者は土木・建築構造物であり、鉄筋はほぼ100%電炉鋼である。

製鉄の原理は古今変わらない。鉄鉱石から金属鉄を得るためには、鉄元素に結合している酸素を引き剥がす必要がある。要するに還元である。還元剤として木炭や石炭が用いられてきた。これらの主要元素である炭素と鉄鉱石に含まれる酸素を結合させて金属鉄が抽出され、この過程で二酸化炭素CO₂が発生する。今日、CO₂は一部の学者から有害物質であるかのような扱いを受けているが、植物にとっては主食である。

日本は鉄資源としての鉄鉱石が乏しく、砂鉄を原料とする「たたら製鉄」によって主に中国山地で鉄(和鉄や和鉄)を製造してきた⁶⁾。日本刀の原料である「玉鋼」はたたら製鉄によって供給されてきたものである。

幕末になって日本を守るための武器や船舶の材料として多量の鋼材が必要となり、反射炉の建造が推進される。その仕組みを図5に示す。溶解室に置かれた鉄鉄を燃料の燃焼熱の輻射熱によって溶解させ、不純物を燃焼・除去する。

幕末の日本で反射炉を最初に実用化したのは佐賀の鍋島藩である。書物のみを頼りに成功したらしい。これは、当時の職人たちが日本刀や農機具など、鉄製品の製造を通して鉄の性質に深い理解を有していたからではないだろうか。話はそれるが、反射炉だけでなく蒸気機関車やアームストロング砲を日本で最初に自作したのも佐賀藩である。佐賀藩は幕末の技術立藩であった。伊豆蓼山の反射炉の建設には佐賀藩の技術が貢献している。

参考資料

- 1) 司馬遼太郎：この国のかたち 五、文春文庫。
- 2) 建築技術教育普及センター：構造設計1級建築士講習テキスト、第2章第2節
- 3) 山口幸夫：金属格子の中の文明、社会思想社、1984。(地学の本)
- 4) 丸山茂徳、磯崎行雄：生命と地球の歴史、岩波新書543、1998。
- 5) 中沢護人：鋼の時代 第13刷、岩波新書、1988。
- 6) 山内登貴夫：和鋼風土記―出雲のたたら師―、角川選書、1975



マニー水守の見聞雑記

1 はじめに

私は水道関係の業務に携わっているが、2011年4月から3年半は水道管製造関係者で組織された鉄管協会へ外向し、ダクトイル鉄管の広報活動をしていた。レンタカーの運転が勤務時間の大半を占めたが、通り道には見聞できる宝箱がたくさん落ちており、ここではその一部を紹介する。

2 阿蘇の水基

熊本県阿蘇市にある阿蘇神社の境内に湧き出る銘水「神乃泉」は、地域の生活用水、飲用水として利用されてきた。十数年前から木製や石造りの水基が14ヶ所設置され、道行く人にふるまわれ、散策コースとして楽しむことができる。写真①は「幸の泉」で、住民が手作りで作り上げた水基である。

3 貝類展示館 海のギャラリー

高知県には名建築が多く、その中でもお気に入り、土佐清水市にある「海のギャラリー」(写真②)である。女性建築家の草分け的存在である林雅子の設計で、1966年に竣工して半世紀が経った現在でも全く見劣りせず、後世に残したい文化遺産として建築百選に認定されている。柱梁のない折半構造で、2枚のコンクリート屋根が棟部のトップライトで連結され、合掌造りになっている。貝類展示館にふさわしく、建物全体が屏風折りのような形状で、オオシヤコガイをイメージした外観である。館内は統一された深いブルーと間接照明により、来館者は海の中にいるように感じる。1階ホールから吹き抜け部に向かって見上げると、トップライトからの太陽光が2階の吹き抜けガラスを透過し、まるで海中から水面を見上げたときの太陽の煌めきを体験することができる。

4 ベタ踏み坂(江島大橋)

島根県松江市から鳥取県境港市を結ぶ江島大橋(写真③)は、水門開閉時の渋滞解消などを目的として2004年10月に供用を開始した。乗用車のCMでは「ベタ踏み坂」で有名になり、豊川悦司と綾野剛の「どうだ、アクセルベタ踏みだろ?……いいえ……」は今も記憶に残っている。5千トン級の船舶が桁下を航行するため、島根県側で6.1%、鳥取県側で5.1%の勾配を設け、道路面の高低差は50mにもなる。中央径間250mは、PCラーメン構造の橋梁では日本最長である。協会の「綾野剛」と呼ばれた?筆者もレンタカーで走行したが、実際に走ってみると「ベタ踏み」にはならない。何往復かしてみたが、結果は同じであった。しかし、日本の最高技術を誇る江島大橋を走行できたことに変わりない。

5 おわりに

鉄管協会時代に収集した見聞雑記はたくさんあるので、

機会があればこの頁を頂戴したい。また、2年間、熊本の広報担当をさせていただきましたが、犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表すとともに、被災された方に心からのお見舞いを申し上げます。(記・生駒支部 水守寛敏)



写真①



写真②



写真③



青年委員会

第3回 奈良の森と木と家のフェスタ

2月20日(土)と21(日)の2日間、「第3回 奈良の森と木と家のフェスタ」が、イオンモール橿原にて開催されました。



奈良の木の利用促進を目的に、県と林業・木材産業・設計業・建築業団体で設立した「奈良の木」マーケティング協議会が、「奈良の木の良さを知ってもらおう、奈良の木を身近に感じてもらう、奈良の木を使ってもらう」というコンセプトのもとに企画し、奈良の木に親しんでもらうイベントを開催しました。

青年委員会の主な展示内容としては、

①奈良県立高等技術専門校さんと、青年委員会とのコラボレーション企画



奈良県立高等技術専門校さんが製作した大きな住宅模型から図面を起こし、3DCADを作成。コントローラーを使って完成した家の中を自由に歩き回れるというものでした。さらに、家の中で飛行機のおもちゃを探すあそびもあり、沢山の子どもたちが楽しそうに操作をしていました。

②木のパズルのチャレンジコーナー



毎回好評をいただいている木のパズルですが、子供だけでなく大人の方も一緒に真剣に取り組んでおられました。

③木製カヌー展示



カヌーに乗船体験をして写真撮影などを楽しんでいただきました。これらの展示には、順番を待つ行列ができるほどで、多くの人々に興味を持っていただくことができ、手応えを感じる事ができました。

その他、昨年行った事業の「おかしの家づくり」・「木工教室」のパネル展示をしました。

イベント全体としては、奈良のゆるキャラのせんとかんやナライガーとの撮影会や宿泊券や奈良の木製品等が当たるスタンプラリーなどがあり大盛況でした。

このように多くの来場者に足を運んでいただいた事により、私たち青年委員会は今回のイベント活動を通し、広く地域社会や生活者へ建築士の仕事や建築士会の活動をアピールする事ができ、わかりやすく職能を伝えることができたと思います。また、将来を担う子供たちにも少しでも建築に興味を持っていただくことができたと思います。

また、今回のイベントは青年委員会の事業の中では長丁場であり、深夜の設営・搬入もあり大変ではありましたが、参加メンバーの活躍により無事に終える事ができ、皆かけがえのない経験ができたのではないかと感じています。

次年度も一般市民の方々を対象とした事業を活発に行いながら、説得力のある活動を展開していけるように、青年委員会一丸となって精進したいと考えます。

(記・青年委員会 吉村尚之)





青年委員会

ＩＴ活用意見交換会を開催しました

3月5日（土）奈良県建築士会館一階会議室において、「ＩＴ活用意見交換会」を開催されました。



ＩＴで変貌する社会に対する建築士の関わり方を考える機会を設け、様々な方と意見交換を行なうことで、自分にはない発想などひらめきを得ることを主旨としております。

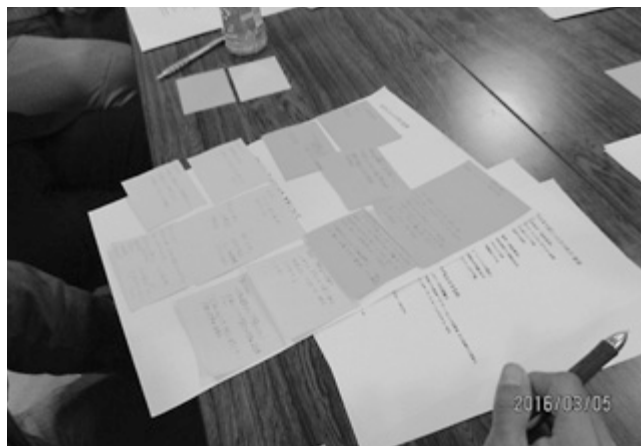


講師がいなく動画のみという初の試みでありましたが16名の方に参加いただきました。

活動内容といたしましては「夏野剛」氏の「ＩＴで変貌する社会と日本企業の未来」の映像を参加者全員で見た後、



グループごとに「自分にとってのＩＴ活用」と「変わるもの、変わらないもの、未来について」という二つのテーマで意見を交換し、参加者それぞれの感じ方やひらめきを共有する機会を設け少しでも仕事や家庭、今後の活動でお役にたてられるよう開催しました。



今回は意見交換会のグループわけをあらかじめ設定し、年齢や職業ができる限りバラバラに分けて偏った意見だけでなく様々な意見が聞けるよう配慮しました。また、付箋を使用し自分のアイデアや率直に思ったことを書き出しグループごとにまとめやすくしました。

ただ今回のテーマである「ＩＴ」に関するテーマは論点が多く出て話をまとめるのが大変でした。

「自分にとってのＩＴ活用」に関しては仕事ではメールやタブレットの使用、必要なものはインターネットで購入、ホームページを活用している等、今でこそありふれていることや「そうなんだ」と気づいた事もいくつかありました。

「変わるもの、変わらないもの、未来について」ではインターネットを使った人材探しや設計図書の効率化、ドローンやGPSを使った土地調査等夢のような話まで飛び出しすごく楽しい時間を過ごせたと思います。

初の試みであった講師のいない映像による「ＩＴ活用意見交換会」大成功に終わったと思います。参加者の方々は建築関係の方たちが多数でありながら自らの立場や年齢、設計、施工の違いというだけでこれだけの意見をかわせてしまうので、次回開催は多種多様一般の方々にもチラシなど広報にも力を入れ、更には参加者ももっと増やすために付加価値のある高い企画を検討していきたいと思います。講演会動画というものはまだまだ数多く存在しています。吟味して意見交換を行う題材を探し次回につなげていきたいと思っています。

（記・青年委員会 齋藤清貴）



青年委員会

近建青事業

近建青事業

第1回近畿青年建築士サミット 事業報告 第1回近畿青年建築士サミットに参加して

平成28年2月13日(土)、大阪府建築健保会館にて、近畿建築士会協議会青年部会主催(担当:研修委員会)、「第1回近畿青年建築士サミット」を開催いたしました。

メインテーマ「キンキハヒツツ!」のもと、近畿2府4県の青年建築士が集い、日頃の活動報告や建築士会の未来について考える機会となりました。この事業のきっかけは昨年度の終わりごろ、近建青出向者以外の各単位士会青年委員どうしの出会う機会が普段なかなかないこともあり、

『府県の垣根を越えた交流、情報交換を行える場をつくりたい!』そして、各単位士会での有意義な活動につなげよう!』という思いで発案しました。

初回となる今回は二部構成とし、第一部では建築士会に入会した動機や、活動をしている理由などを活動年数の近い参加者間でお話いただき、今後どのような会となれば継続して活動ができるのか、会員増強につながるかなどを協議しました。第二部では、「近建青アニュアル」に掲載されている事業から6テーマをブース分けし、グループ・ディスカッションを行うことで各府県での取組みの違いなどを知っていただき、今後より良い事業とするための方法について意見を交わしました。

サミット後のアンケートでも今後につながる様々な意見をいただき、次年度以降の近建青、各単位士会の活動の糧になるように考えていきたいと思います。

今回、120名(内、奈良県青年委員会委員17名。協賛企業の参加者含む。)を超える方々にご参加いただき、ありがとうございました。改めて御礼を申し上げます。この経験を日頃の仕事や、建築士会活動にお役立ていただければ幸いです。

奈良県建築士会青年委員会より近畿建築士会協議会青年部会に出向させていただき、サミットの担当委員会である研修委員会にて事業を担当いたしました。

お忙しい中、参加していただいた委員の皆様ありがとうございました。第1回と初開催の事業ということで、すべて手探りの状態から企画・運営となりましたが、結果的には建築(士)の次世代を担う多くの青年建築士が集まり、これからの建築士会について互いの意見を交わし合いしっかりと協議することができたと思います。サミット後の懇親会でも、普段は関わる事の少ない他府県の建築士と交流する場を設けることができました。

他府県での事業に参加し、県外から奈良県を見つめることにより見えてくる部分があります。それにより刺激を受けて奈良県での事業や活動に活かされるはずです。しかし、その機会が近建青への出向や全国大会などへの参加と限られた人にしか体験できないのでは勿体ないので、今後とも、他府県との交流は多くの会員の方々に経験していただきたいと思っています。

来年度は、ありがたいことに研修委員会の委員長として第2回に向けて企画を進めさせていただくこととなりました。近畿2府4県の青年建築士が揃って、“楽しく”“前向きに”“向上心を持って”“共に成長し”“また参加したくなる”事業にさせていただきたいと思っております。

企画において、青年委員会の皆様にも改めてヒアリング等をお願いする予定です。青年みんなで作り上げていく事業ですので、ご参加いただく事も含めご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

近畿建築士会協議会青年部会 研修委員会 委員長
島村 健司(和歌山県建築士会青年委員長)

近畿建築士会協議会青年部会 研修委員会 次期委員長
東川 正樹(奈良県建築士会青年委員)





郡山支部

未来につなぐ！

城下町の歴史的建造物を活かしたまちづくり

平成22年より郡山支部「郡山城下町建物探訪部会」（以下、探訪部会）が取り組んできました。「城下町箱本十三町を主とした町家調査」については、平成23年から現在に至り支部活動報告として士会HPや本誌に掲載させて頂きました。

文化庁「歴史建造物の保全活用の促進による地域の活性化事業」の一環での悉皆調査^{しっかい}の発表を行ったことを皮切りに、平成24年秋には郡山城ホールに於いて「温故知新」と題したパネル展示会を開きました。さらに、平成25年から毎年「なら・はならあと」期間中に市内各所にてパネル展示等を開催致してきました。

平成26年度からは、建物調査した歴史建造物の中から、特徴的な建物を「郡山として大切にしたい建物50選」として厳選しました。その所有者に聞き取り調査をし、概要平面図を起こして記録としました。

平成27年度には、大和郡山市が実施助成している「大和郡山市アイデアサポート事業」に採択されました。探訪部会により、未来につなぐ城下町の歴史的建造物を活かしたまちづくりに向けて、パネル展示、フォーラムを開催、これまでの調査の冊子を編集する運びとなりました。士会会員の方にも機会があれば、一度手にとって頂きたいと思っております。

そしてこの度、2月14日(日)に「やまと郡山城ホール」にてパネル展示会を開催。そして、3月13日(日)午前中、市内外より40名の参加を頂き2班に分かれての歴史的建造物を巡るまち歩きを開催しました。



2/14
やまと郡山城ホール
にて展示会



3/14
まち歩きの様
(1班)



3/14 まち歩きの様 (2班)

最初の訪問先は本町の「横田家住宅」です。元々両替商で城の内濠に接していた位置に有り、敷地奥に船着き場の石段跡が残っているのも興味深いところです。

堺町～蘭町を通り次に向かうのは、有形登録文化財で知る人ぞ知る「杉山小児科医院」です。欧風のハーフトンバーと白壁が雰囲気を演出して町並みに独特な存在感を与えています。又内部のステンドグラス窓アールデコ調の階段等も見所です。

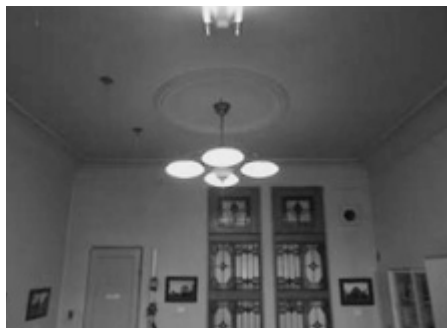
本町筋～南鍛冶町～茶町～雑穀町を経て今井町の「松田家住宅」に辿ります。松田家住宅は昭和初期の総2階建て、内玄関に吹き抜けの坪庭を配した京町家風の所有者のセンスが活かされた粋な造りになっています。

今井町を出て菓子司菊家本店を通り紺屋町箱本館にてトイレ休憩をした後、蘭町～矢田町～柳町から「和田徳」「Kコーヒー」の金魚BOXを見て、北大工町から洞泉寺町の最終点のフォーラムの会場でもあり、同時にパネル展示もある「旧川本家」に到着致します。約2時間の行程の中、特徴ある建物に参加の皆様には楽しんでもらえたようです。

但し、調査当初に比べまち並みの空地が現在進行形で増加しているのが問題を提起しています。現存の町家風景を次世代に残すには多方面の努力がなければ困難です。更に愛着を持って頂く方が増える事を期待したいと思います。



横田家住宅
かまど (へっつい)



杉山小児科医院
内観



松田家住宅
坪庭吹抜け

午後からは「旧川本家(有形登録文化財、元遊郭楼建物)」にてフォーラムを開催しました。第1部基調講演に兵庫県篠山で古民家再生利用に取り組み、地域活性のため活動されている建築家 才本謙二氏(才本建築事務所代表)をお招きしました。

才本氏は地元篠山で自身が関わったプロジェクトを例に、利活用の手法、資金調達関連、公的な補助金制度の活用、所有者の維持管理の軽減、重伝建地区への対応等、多様な視点からアドバイスされました。その後、徳本探訪部会長から建物調査の経緯、活動報告を行い前段は終了しました。

休憩を挟み第2部は、各地の活動家による報告及び地元町家所有者からの建物紹介が有りパネルトークに続きます。まず才本氏は利活用関連の諸々の法的問題の処理、日々の暮らしの中に重要なヒントが有る等々のお話をいただきました。

上田琢也氏(今井町まちなみ再生ネットワーク理事長)は現在の今井の現状と推移について話され、道路が狭く往来に困難がある、又夜間の環境も問題があるとのことでした。

小山豊氏(NPO法人くらす理事長)は地元柳町の再生利用を通じて地域の貢献活動報告がありました。

前田貴司氏(町家所有者)は、ご自身の職業(CFP)を踏まえ自宅の例を挙げながら税金対策と資金面の課題を提起され、又再生事業は多いに夢を持てる事だと強調されました。

葉本英明氏(町家所有者)も自宅を紹介して、木喰虫の

駆除方法を質問され、又我々建築士に対し柔軟な相談者であって欲しいとの要望もされました。

徳本雅代(副支部長・探訪部会長)は郡山の地域特性を保ち住人と建築士も意識を自覚して進めるのが重要であると提言しました。

当初の予定を多少オーバーしましたが、コーディネーターの何左昌範(支部探訪部会員)の軽妙な進行に支えられ、参加の方は熱心にメモを取ったり、質問をしたりと白熱した中パネルトークは終了致しました。

締めくくりで、井上慶治副会長が「我々建築士をもっと愛してもらい、上手に利用して頂きたい」と挨拶されて幕を閉じました。

今回のイベントは当支部探訪部会の中間的区切りでの活動報告会であり、さらに目標を掲げ、前進しなければと痛感しております。

尚この開催に際し協力を頂いた多くの方、とりわけ町家建物所有者・住人の方・町歩き、聴講参加の方・活動家の方々・大和郡山市役所・建築士会の方々に對し厚く御礼申し上げます。



基調講演
(建築家 才本氏)



パネルトーク
の様子



「未来につなぐ!」
報告書冊子

(記・郡山支部 副支部長 和田 修)



奈良支部 スペイン研修報告書

1. 研修期間

平成28年3月18日～平成28年3月25日（日本時間）

2. はじめに

スペインは地域ごとに各隣国の歴史・文化に影響され現在にいたります。今回の研修にて、バルセロナ・バレンシア・グラナダ・コルドバ・ラマンチャトレド・マドリードと、各地によって違う歴史的背景と風土・街並み・建築物、スペインの代表的建築家アントニ・ガウディの作品群の現状を報告いたします。

3. 研修日程

3月19日

バルセロナにて、サグラダ・ファミリア、コロニア・グエル教会、ミロ美術館、バルセロナ・パビリオン、カンブ・ノウスタジオ見学

3月20日

バルセロナにて、サン・パウロ病院、グエル公園、グエル邸、サンタ エウラリア大聖堂、カタルーニャ音楽堂、ピカソ美術館見学

3月21日

グラナダにて、アルバイシン地区サン・ニコラス広場、夜間 ヘネラリフェ庭園、アルハンブラ宮殿見学

3月22日

コルドバにて、ユダヤ人街、聖マリア大聖堂（メスキータ）バハーダ・デル・ブエンテ橋見学
ラマンチャ地方にて、コンスグエラ風車見学

3月23日

トレドにて、サント・トメ教会「オルガス伯の埋葬」、サンタマリア・トレド大聖堂見学
マドリードにて、マドリード市街、プラド美術館見学



サグラダ・ファミリア



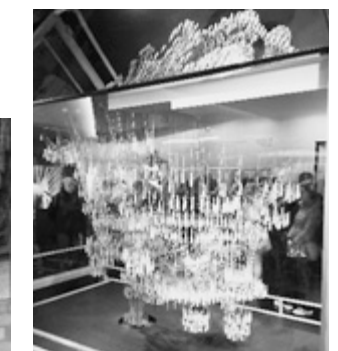
ミロ美術館



バルセロナ・パビリオン



サンタマリア・トレド大聖堂



コロニア・グエル教会



アルハンブラ宮殿



聖マリア大聖堂
（メスキータ）

4. 研修内容・感想

このたびはスペイン建築研修という大変貴重な経験をさせていただいたことを大変感謝しております。多くの建築を見学させていただきましたが、その中から数点抜粋し報告させていただきます。

○サグラダ・ファミリア

1882年に着工し現在も建設・修復中の建築である、第9代目設計責任者によると2026年に完成予定と発表されている。外観は134年と長い月日が経つとともに西洋建築特有の石の建築であるために建設時期により、同じ素材ではあるが様々な表情を表していた。内部は1つの柱



が細く感じ、逆さ釣模型が表しているように自然の力にさからわない、合理的な構造体、そこに植物、動物、悪魔などをモチーフにした装飾が加わることにより、今まで体験したことがない内部空間を感じることができた。内部床を一部大理石ではなくコルクを使用しコスト削減をしたり、3Dプリンタなどの最新技術により建設速度を上げたりと、コスト・技術面も工夫されているが、予定通り完成したサグラダ・ファミリアを観て、144年の月日を経て完成した建築と今回の研修にて観て体感したものを比べてみたい。

○グラナダ アルバイシン地区

イスラーム時代の街並みが残り白壁と石畳で構成された地域のアルバイシン地区にあるアルハンブラ宮殿を一望できるサン・ニコラス広場、この地域はアルハンブラ宮殿・ネラリフェ庭園とともに世界遺産に選ばれている。タイルがあらゆるところに配置されており表札・ベランダの上裏開口部など、グラナダのシンボルであるザクロの絵や幾何学的文様が入っているものが多く見られた。

○アルハンブラ宮殿・ヘネラリフェ庭園

ヘネラリフェ庭園を通りアルハンブラ宮殿へと入っていく、ヘネラリフェ庭園は門のような植栽や死の象徴でもあり墓地などに多く植えられている糸杉が配置されており、西洋風な印象が感じ取れたが、石畳にはやはりザクロの模様があり、そこから見えるアルハンブラ宮殿はカルロス5世宮殿・ナスル宮殿など敷地内だけであってもルネサンス様式やイスラームナスル朝様式など歴史的背景から見て取れる建築様式の違いも色濃く残っている。ナスル宮殿内部に入ると木・タイル・漆喰が多く使われておりそれらで天井・壁面などの装飾・幾何学的文様などを作り、石はいくつかあるパティオの周辺の柱など必要最小限となっている。

○聖マリア大聖堂（メスキータ）

メスキータはキリストの再征服が果たされた後その名を聖マリア教会とし、イスラーム様式の一部を取り壊しゴシックとルネサンス様式の折衷した聖堂を増築したものが現在の通称メスキータとなっている。木製の幾何学的文様の開口部、ミフラブがあり、レンガと石灰石の2重アーチからなる天井の低い薄暗い空間にステンドグラスから光が差し込んでいるイスラーム建築があり、そこにバットレスなどを用いたゴシック様式の聖堂が中心部に増築されている。当時は入り口が多数あり光・風ともに多く取り入れられていたそうだが現在は1つしかなく他はふさがれている。ミナレットにおいても現在は鐘を鳴らすキリストの鐘楼となっている。このように2つの大きく異なった宗教建築が歴史・時間を経過しようとも現代まで現存しているという事で、宗教や時代による建築の違いというものを確認できる数少ない建築である。

○最後に

今回の研修にて、スペインの国内においてもその土地の歴史的背景・風土により街並み建築において様々な違いを見ることができ、バルセロナではガウディをはじめとするモデルニスモ様式、グラナダ・コルドバではムデハル様式と影響されているところが違う。

また郊外の住宅は、外壁は白で屋根はレンガ、建具等にビビット色が多く見られたが少しマットで周辺と調和しているように見て取れた。

市街地においては、アパートに駐車場がなく道路に駐車しているところなどから、新築は少なく改修を基本としていることが見て取れ、このようなところから古くからの建築があることにより地域・地区により、現在でも街の様相が色濃く出ているのではと今回の研修にて感じ取れた。

最後になりましたが、今回の研修を企画してくださいました奈良建築士会奈良支部の関係者皆様方に厚くお礼申し上げます。

(記・福島貴大)





天理支部 京都国立博物館・二条城 研修会

開催日時

平成28年3月6日(日)

8:15~17:00

開催場所

午前 京都国際博物館

午後 二条城

参加者

20名

ようやく春の気配が感じられるようになってきた3

月6日、天理支部では京都方面への研修会が開催されました。

今回の参加人数は、天理支部会員外のゲストの方々も含め、総勢20名の参加となりました。集合場所での挨拶はマスク（花粉症）の話から始まり、天理を出発したバスは、一路京都へ向かいました。

まず、到着したのは東山の京都国立博物館。煉瓦造りの正門をくぐると、広々とした敷地に大きな噴水、そしてロダンの『考える人』が目に入ってきます。出迎えてくれたのが寅のゆるキャラ『トラりん』。京都国立博物館の公式キャラクターだそうです。尾形光琳の



京都国立博物館 正門前



平成知新館にて 集合写真



特別展示館 明治古都館



平成知新館前 池

幼名より『虎形琳ノ丞』からの命名のようです。

更に正面奥には煉瓦造りの建物が旧本館と言われる『明治古都館』が印象的。明治28年竣工のフレンチルネサンス様式の煉瓦造平屋建ての特別展示館。重要文化財となっており、今は耐震改修工事の準備段階で閉鎖中のようです。平常展示場としては、左手の建物『平成知新館』。2013年竣工で人工池を正面に配置したシンプルな近代建築でありました。

個人的には、明治の煉瓦造りと近代建築がミスマッチしており、違和感があったのは私だけでしょうか。

特集陳列『雛まつりと人形』をテーマに2月27日～3月21日まで特別展示されています。

雛人形を飾るようになったのは、江戸時代の初期からのようで、雛人形の変遷を見ることが出来ました。中でも立派であったのが、『御殿飾り雛』です。平常展示としては、仏像や獅子・狛犬、水墨画など古来からの伝統文化作品にふれることとなりました。

午後からは、世界文化遺産の二条城へ足を運びました。二条城は、1603年に徳川家康が造営し、1867年に二の丸御殿にて、歴史にあった『大政奉還』を発表した場所となります。1994年には、ユネスコの世界遺産に登録されたようです。

二の丸御殿は庭園と立派な障壁画が残されており（国宝）、その時代の統制や強さを感じる木造建物でありました。うぐいす張りの回廊が響き渡っていたのが印象的でした。二の丸御殿は、当時の大名達が集ま

る客間的な建物であったようです。

池に囲まれた本丸御殿や今は石垣だけの城跡を散策し、春の気配を感じる広い庭園は距離にして往復約2km以上はあったかと思います。

今回の研修は、午後からの雨を心配しましたが、終日春日和の一日となり、日本の伝統とその時代の作品、そして古都京都の歴史を再勉強する機会となり、春の陽気を満喫することができる研修となりました。

今回研修の幹事様、支部長、そしてご参加頂きました皆様有難うございました。



二条城 二の丸御殿

(記・天理支部 米杉三伸)



高田支部 高田支部事業報告

平成27年度支部総会

開催日時 平成27年 5月14日(木)

16:30~17:30

開催場所 ふたかみ文化センター(香芝市)

出席者 18名(委任状61名) 議会は成立

今年度、高田支部は香芝市にあるふたかみ文化センター会議室にて事業報告会を行いました。県議会議員 奥山様、衆議院議員 奥野様秘書木口様、奈良県建築士会会長 瀧上様、奈良県建築士会事務局長 鹿沼様を迎えての開催となりました。報告会終了後、同ホール内のレストランにて懇親会が行われました。(一社)なら建築住宅センター理事長西浦様の挨拶、奈良県建築士会事務局長鹿沼様の乾杯の御発声の後、和やかなムードの中、懇親会がはじまりその後も個々で熱い議論が繰り広げられました。

(記・高田支部 谷 幸治)

第58回 建築士会全国大会 石川大会及び(株)中東工場見学会

開催日時 平成27年10月30日(木)~31日(金)

開催場所 株式会社中東様(石川県)

出席者 9名

少し肌寒くなってきた10月、高田支部は石川県全国大会に参加してきました。

まちの活性化、防災まちづくり、建築文化の継承、そのための専門家の育成を高く掲げ、47都道府県建築士会9万名の建築士同士とともに、次の通り宣言しました。



今回、大会の舞台となった金沢は、「能」、「加賀万歳」、「茶道」などの多様な文化、「金沢箔」、「加賀友禅」、「金沢九谷」などの伝統工芸の他、武家屋敷、町家など歴史的な



建築物が数多く残っています。

金沢は、伝統の趣の中に新しさが調和されており、今回のテーマにふさわしい開催地と言えます。

翌日は(株)中東様のご協力により、石川県は岩内町内にある集成材工場の見学をさせて頂きました。

切断、穴加工などはCADと連動した全自動のプレカットマシンで行います。



当日はパワーポイントを使用した集成材、施工実績の説明や工場内の案内等、大変貴重な経験となりました。準備、調整をされていた(株)中東の職員の方々には改めて御礼を申し上げます。

(記・高田支部 上村孝友)

ゴルフコンペ・意見交換会・ボウリング大会

開催日時 平成27年10月2日(金) ゴルフコンペ

平成27年12月4日(金) 意見交換会

平成28年2月26日(金) ボウリング

開催場所 グランデージゴルフクラブ(ゴルフコンペ)

夢心(意見交換会)

オプトボウルタカダ(ボウリング)

出席者 19名(ゴルフコンペ)

37名(意見交換会)

48名(ボウリング)

これらの事業は高田支部で最も伝統的なものに違いない。我々支部会員と賛助会の皆様、ボウリング大会においてはその社員と家族まで対象にしている。このようなレクリエーションは意見交換の重要な場ばかりでなく、会員同士をつなぐ強い絆となり、賛助会の方から技術と知識を得られる貴重な場となる。高田支部の会員が今後も減らずにより魅力的であるために今後も開催していきたいと強く誓うものである。

(記・高田支部 吉田 泰造)

近江八幡市見学会



「近江八幡市環境エネルギーセンター」南側外観

開催日時 平成28年3月12日（土）

7：30～18：30

開催場所 近江八幡市環境エネルギーセンター
近江八幡市（ラ・コリーナ近江八幡、
ヴォーリス建築）

参加者 22名

早春の候、高田支部では研修見学会を開催致しました。
晴天に恵まれ、各研修先へ円滑に移動することが出来ました。

最初の目的地は、「近江八幡市環境エネルギーセンター」
で、施設は6棟で構成されており延床約1万500㎡の大規模な一般廃棄物処理施設です。



熱回収施設内部の見学の様子

廃棄物の焼却で得た回収熱は、蒸気タービンで発電したり温水プールにも利用されるそうです。その他、金属・ビン・ペットボトル・紙類などの資源ごみも回収分別され、正に廃棄物の総合環境エネルギー施設と言えるでしょう。

次の研修地は同じく市内で、近江八幡を拠点として活躍したアメリカ人建築家ヴォーリス氏設計の建築散策へ向かいました。旧八幡郵便局や近江兄弟社学園など20軒余りが現存しており、日本古来の伝統的建造物群にとけ込み素晴らしい景観を形成していました。同日、左義長まつりが開催されており、ダシの宮入に遭遇するなど伝統行事も観覧でき、充実した散策となりました。



「旧八幡郵便局」外観



左義長まつりのダシ回し

次に向かったのは、建築史家・建築家の藤森照信氏設計の「ラ・コリーナ近江八幡」です。



「ラ・コリーナ近江八幡」事務所棟を背景に…



店舗棟内部空間

店舗棟は既に営業されており、大変賑わっていました。
また、建設工事中の事務所棟を見学できる貴重な機会を得ました。藤森建築独特の造形と素材感は、懐かしくもあり斬新さを感じる、新しい価値創造だと感じました。



晴天の下「ラ・コリーナ近江八幡」にて記念撮影

そして最後に遅い昼食会場へ……。甲賀市にある「魚松」の名物、近江牛と松茸のあばれ食いで、舌鼓を打ちつつ会員相互・賛助会員との親睦を図ることが出来ました。



名物「あばれ食い」を堪能いたしました。（記・高田支部 松村泰徳）



平成27年度・奈良市内における近世近代の歴史的建造物の掘り起こしによる地域活性化事業

平城地域歴史的建造物調査 報告会

押熊・中山・山陵・秋篠・歌姫

平成28年3月20日、平成26年度の富雄地域歴史的建造物調査に続き、平成27年7月～平成28年3月、平城地域5地区の近世近代の歴史的建造物(主に住宅、社寺仏閣を除く)を現地調査し、概要及び分布図にまとめ、地域住民への報告会が「おしくま会館」で行われた。

【調査結果と主屋の判別結果】(調査総件数561件)

		押熊	中山	御陵	秋篠	歌姫
調査件数：敷地		138件	74件	136件	131件	82件
主屋	歴史的建造物	33件	20件	26件	31件	39件
	中間的なもの	54件	35件	48件	36件	19件
	非歴史的建造物	50件	19件	61件	63件	21件
	不明・その他	1件	0件	1件	1件	3件

※不明・その他とは塀や庭木などにより主屋が確認できなかった件数、及び住宅以外の件数

※調査員：地域文化財建造物専門家(ヘリテージマネージャー)
奈良県文化財職員(奈良市教育委員会との協働)

平城地域は、奈良盆地の最北端に位置し、平城山丘陵と西の京丘陵を含めた地域で、秋篠川支流押熊川流域に押熊、その南側に中山、近鉄平城駅西側に秋篠、同じく駅の東側に御陵、平城宮跡の北側に奈良と京都を結ぶ奈良時代以前から有る古道、歌姫街道沿いに歌姫の5地区を調査した。



調査者による報告発表

報告会は、地域の調査を行ったヘリテージマネージャーにより、各地区の歴史(地区の方からの聞き取りによる)と、景観・敷地、主屋、付属屋等の形態・その他の特徴・調査を終えての感想等の調査報告の形で行われた。

続いて、奈良女子大学名誉教授の上野邦一氏(奈良女子大学各術研究センター国際親善教授)をコーディネーターに迎え、報告者5人による「平城地域に残る歴史的建造物調査を終えて感じたこと・歴史的建造物の維持等について」のパネルディスカッションが行われた。

- ・**押熊**：地域の人達が自分たちの住む建造物はこう有るべきという住民の意識が高く地域行事をとうして自分たちの地域の歴史を守っていかこうとする姿が見られる。
- ・**中山**：歴史的建造物・中間的建造物が多く残されているが空き家となっているものもみられ他の地域同様今後の課題と考えられる。
- ・**秋篠**：地域の連帯行事を守っていく事の大事さが住民意識として感じる。歴史的建造物は古い技術を受け継いでいくのが大事ではないか。所有者と大工さんの話し合いで建物ができる。このことが大事だと思う。
- ・**御陵**：日本建築のこれからを考えると、後世に何を残すかをみると現存する歴史的建造物を残す必要がある。
- ・**歌姫**：歴史的建造物が多く残っている。このままの美しい家並みのスカイラインを残してほしい。



パネルディスカッション

又、「歴史的建造物を維持するにはどうすればよいか」については、地区からの人口流出をいかに食い止めるかが課題となり、それには就労に必要な産業の確保が必要であるが地方都市の共通した悩みであり難問である。

今回の報告会に参加頂いた地区の方々からの質問として、歴史的建造物及び中間的建造物の調査は、外観からの報告と成っているが内部の間取り調査はしないのですか？

定点調査をおこなってみては？等いろいろな意見も聞かれ自分たちの地区を大事にされている姿がうかがえました。



多数の地域住民が参加

(記・檀原支部 安田千鶴代)



お知らせ

Information

●平成28年度 通常総会について

日 時：平成28年5月19日(木) 16:00～

場 所：奈良県文化会館

議 事：平成27年度事業報告及び決算承認

理事及び幹事の選任について

平成28年度事業計画及び予算(案)について

その他

事業報告会 18:00～18:30

懇親会 18:40～20:00

※正会員の皆様は、出欠票を提出頂きますようお願いいたします。
す。なお、残念ながら欠席される場合には、必ず委任状のご返送をお願いいたします。

●平成28年度建築士試験日程の案内

1 平成28年一級建築士試験日程

申込書配布 4月1日(金)～5月16日(月)

申込受付 5月12日(木)～5月16日(月)

「学科の試験」 7月24日(日)

「学科」合格発表 9月6日(火)予定

「設計製図の試験」 10月9日(日)

「設計製図」合格発表 12月15日(木)予定

2 平成28年二級建築士試験日程

申込書配布 終了

申込受付 終了

「学科の試験」 7月3日(日)

「学科」合格発表 8月23日(火)予定

「設計製図の試験」 9月11日(日)

「設計製図」合格発表 12月1日(木)予定

3 平成28年木造建築士試験日程

申込書配布 終了

申込受付 終了

「学科の試験」 7月24日(日)

「学科」合格発表 9月6日(火)予定

「設計製図の試験」 10月9日(日)

「設計製図」合格発表 12月1日(木)予定

※詳細は(公財)建築技術センターのホームページをご覧ください。

●平成28年度一級・二級・木造建築士定期講習についてのお知らせ

日程【第1期】

日 時：平成28年6月8日(水)

場 所：奈良県産業会館(大和高田市)

定 員：100名

受付期間：終了

【第2期】

日 時：平成28年8月23日(火)

場 所：ホテルリガーレ春日野(奈良市)

定 員：60名

受付期間：6月13日(月)～30日(木)

【第3期】

日 時：平成28年12月6日(火)

場 所：奈良県産業会館(大和高田市)

定 員：100名

受付期間：10月予定

【第4期】

日 時：平成29年2月23日(木)

場 所：ホテルリガーレ春日野(奈良市)

定 員：60名

受付期間：12月予定

●訃報

増田 浩三 氏(奈良支部) 6月12日

北林 政一 氏(橿原支部) 11月13日

福井 弘 氏(橿原支部) 11月

福村 史郎 氏(奈良支部) 2月1日

矢野 友洋 氏(郡山支部) 2月9日

岡田 晃 氏(吉野支部) 3月13日

大岡 一成 氏(奈良支部) 4月1日

ご冥福をお祈りいたします。

新入会員のご紹介 『よろしく』

氏 名	支部	〒	住 所 (自宅)	勤 務 先
吉 信 秀 樹	奈良	630-8325	奈良市西木辻町58-6	大吉建設(株)
河 野 隆 行	奈良	631-0007	奈良市松陽台2丁目2-5	(株)YUGO・コーポレーション
中 川 祐 介	奈良	630-8144	奈良市東九条町229-20	(有)四季園
与 語 一 哉	奈良	630-8141	奈良市南京終町7丁目571-5 糸川ハイツ101	藤岡建築研究室
瀧 将 一	桜井	633-0054	桜井市阿部327 ラウンドハッピーネス202	(株)瀧川社寺建築
金 山 尚 文	橿原	634-0835	橿原市東坊城町998-4 タウニイ坊城A棟102号	(株)都市企画設計コンサルタント
扇 田 真 希	橿原	636-0242	磯城郡田原本町大木211	(株)ヤマダエスバイエルホーム
美 島 裕 作	奈良	630-8114	奈良市芝辻町4-1-6 メゾン佐保B406	(株)松田組
生 駒 奉 文	奈良	630-8202	奈良市川上町93番地	(有)相互設計
吉 田 修 平	橿原	636-0225	奈良県磯城郡田原本町西代459-2	(有)ビー・ステップ
森 雅 之	橿原	634-0803	橿原市上品寺町47-1-604	かとう建設(株)
福 田 成 生	天理	630-0212	生駒市辻町881-37	(有)センザイ不動産一級建築士事務所

編集後記

原稿の最終確認をしていこうかという最中、大きなニュースが飛び込んできました。

4月16日、熊本県熊本地方で、最大震度6強の大地震が発生しました。その後、震度7の地震が続けて発生しており、余震も多く今回の地震の特徴にもなっているようです。

一夜明けて、被害状況が徐々に明らかになっていくなか、「阪神淡路大震災」の時とは違い、発生が比較的田舎だということもありますが、火災等の二次災害が少ないように見受けられます。過去の地震の教訓が生かされているのかなと嬉しく思う半面、やはり多くの建物が、倒壊・半倒壊している映像が流れています。

耐震改修が進められてきた現在、熊本県でも耐震補強工事を終えた

建物が多く存在するはずですが、その建物が、今回の地震でどのような状態で人々の命を救ったのか知りたいと思うのは、私だけではないはずです。

今回の地震も、活断層が原因とされていますが、奈良県にも活断層は存在します。しかし、私が木造の耐震診断をした方の多くは、「奈良は都があったから大丈夫や」とおっしゃいます。そういった方の考えを少しでも変えるよい機会だと思います。

地震は大変恐ろしい自然災害です。避けようが無い災害です。しかし、気持ちひとつで変えられる災害でもあると思います。少しでも多くの方に分ってほしい。私自身も気持ちを新たにしたい次第です。

(記・宮浦重彦)

Calendar

2016年5月

3(火) ☒ 憲法記念日

4(水) ☒ みどりの日

5(木) ☒ こどもの日

12(木) 一級建築士試験受付
(16日まで・奈良県建築士会館)

19(木) 平成28年度通常総会(奈良県文化会館)

25(水) 住宅無料相談会 (奈良県建築士会館)

Calendar

2016年6月

8(水) 第1期定期講習 (奈良県産業会館)

22(水) 住宅無料相談会 (奈良県建築士会館)

士 會 奈 良

通巻607号

平成28年5月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 堀 上 徳 光

編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会

印刷所 株式会社 明新社

重要なのは「今」の合格実績! 合格者数No.1の総合資格学院!!

平成27年 1級建築士 設計製図試験

奈良県
合格者占有率

No.1

奈良県 合格者占有率

57.5%

奈良県合格者40名中、当学院現役受講生23名

<平成27年12月17日現在>

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。※都道府県合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表による。

平成27年 2級建築士 設計製図試験

奈良県 合格者占有率

46.3%

奈良県合格者54名中、当学院現役受講生25名

<平成27年12月31日現在>

奈良県の合格者のおよそ2人に1人は、当学院の現役受講生!

法定講習 一級・二級 建築士定期講習/管理建築士講習
第一種電気工事士定期講習/監理技術者講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習

法定講習サイト(検索)

開講講座 1級・2級 建築士/1級・2級 建築施工管理技士/1級・2級 土木施工管理技士/建築設備士
構造設計1級建築士/設備設計1級建築士/宅地建物取引士/インテリアコーディネーター



総合資格学院

学院長 岸 隆司

奈良校

TEL.0742-30-1511

<http://www.shikaku.co.jp>

総合資格

検索

奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

Facebook 「総合資格 fb」で検索!